

特別支援学校

- (1) 小学部 体育
- (2) 生活单元学習
- (3) 小学部 生活单元学習
- (4) 学級活動
- (5) 高等部 生活单元学習
- (6) 高等部 自立活動
- (7) 高等部 総合的な学習の時間
- (8) 高等部 総合的な学習の時間
- (9) 学級活動
- (10) 学校行事

1 単元名

「命を守るリズムランニングをしよう」

2 ねらい

- ・「命を守るリズムランニング」に、繰り返し取り組むことで、危機回避行動（鬼から逃げる）、地震発生時の初期行動（ダンゴムシのポーズ）、避難行動（集団で歩く）等の動作がとれるようにする。

3 指導計画

（１）事前指導

- ・音楽に合った動作の手本に合わせ、同じように身体を動かすことができる。

（２）本時の指導

- ・「命を守るリズムランニング」（ＣＤ 約１５分）に合わせて動作を行う。

（３）事後指導

- ・適切な行動が取れた児童を認め、どのような行動をとるとよいか紹介する。
- ・日常生活の様々な場面でも、適宜、地震が発生したことを想定し、初期行動等がとれるように練習する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 音楽に合わせ、命を守るリズムランニングに取り組む。 ① 歩く ② 軽く走る ③ 速く走る ④ ジャンプする ⑤ 鬼から逃げる ⑥ ダンゴムシのポーズをとる ⑦ 集団で歩く ⑧ ダンス ⑨ 集合 2 振り返りを行う。	・子どもたちと一緒に動き、音楽に合った動作の手本を示す。 ・適切な行動がとれた児童を認め、どのような行動をとるとよいか紹介する。。	・「命を守るリズムランニング」ＣＤ

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現・実践	知識・理解
音楽に合わせ、命を守るリズムランニングに進んで取り組もうとしている。	命を守るリズムランニングに繰り返し取り組み、危機回避行動、地震発生時の初期行動、避難行動等の動作を身に付けている。	命を守るリズムランニングに繰り返し取り組み、危機回避行動、地震発生時の初期行動、避難行動について、理解している。

6 その他

○可茂特別支援学校開発教材「命を守るリズムランニング」

【概要】

- ・音楽に合わせて楽しくボディイメージを高める活動に、防災の内容を取り入れた。
- ・教師の指示に従って、並んだり移動したりし、地震発生時の初期対応の動作や行動を身に付ける。
- ・災害時に、日常行っている行動をとることで、無理なく対応することができる。



1 単元名

「ダンゴムシで吹っ飛ばせ！」

～安心☆めざせ！ダンゴムシ マスター～

2 ねらい

- ・緊急地震速報と地震の関係が分かる。
- ・地震発生時の初期行動「ダンゴムシ（シェイクアウト）のポーズ」を理解し、緊急時に即座にその態勢を取ることができる。
- ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所が分かり、自ら安全な行動ができるようにする。
- ・適切な避難の方法と避難場所を理解する。

3 指導計画（1／5 単位時間）

（1）本時の指導

- ・ダンゴムシマスター！（速報を聞いて、シェイクアウトが分かる。できる。）

（2）事後の指導

- ・ダンゴムシを見つけよう！ ～落ちてこない！倒れてこない！移動してこない！場所～
- ・どこでもダンゴムシ！ ～いろんな場所～ダンゴムシはどこにいるの？～
- ・ダンゴムシの大移動！ ～安心！安全！みんな集合だ！～集合場所まで行ってみよう！～
- ・ダンゴムシリーダーは君だ！ ～ダンゴムシをマスターしてリーダーになろう！～

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 本時の活動の説明 ・見通しカードで、本時の流れを確認する。 ・ワークシートの説明を聞く。	・活動の内容を確認する。（見通しカードの活用・端的な言葉）	・緊急地震速報の音（ゆれくるコール：アプリ） ・ワークシートを準備する。
2 起震車で地震の体験をする。 ♪緊急地震速報の音を聞き、地震体験をする。 →緊急地震速報と地震の関係を知る。	・教師が同乗し児童生徒の様子を観察する。 □実際に想定される児童生徒の動きを知る。	・起震車の依頼（防災土との打ち合わせ）
3（i）シェイクアウト（安全行動） ♪地震速報・地震がきたら・・・ ①ドロップ（まず低く！） ②カバ―（頭・首を守る！） ③ホールド・オン（そのまま待つ！）	・イラストで、ダンゴムシのポーズを提示する。（視覚支援） ・児童生徒の学習状況を把握し、ダンゴムシのポーズがとれるように、支援をする。（行動支援） ・教師が率先してモデルとなる。	・緊急地震速報の音（ゆれくるコール：アプリ） ・ダンゴムシのポーズのイラストを準備する。 ・シェイクアウトのイラストを準備する。

(キーワード) <u>ダンゴムシ</u>  4 (ii) シェイクアウト (安全行動) 起震車で実際に体験する。	り、手本を示す。(視覚支援) ☐ うまくできている生徒を認め、うまくできているポイントを紹介する。 (みんなの前で示範をする。) わかりやすい言葉で伝える。(聴覚支援) ☐ その場所で、ダンゴムシ(シェイクアウト)ができたか。 ☐ 様子の変化を知る。	
5 安全・安心と約束を知る。 - 訓練を通して安全・安心が得られることを学ぶ。 6 まとめと評価をする。 - 今日の評価を受ける。 (ワークシートにシールを貼る) - 感想を発表する。	ルールや約束を守ることによって安心して避難ができることを伝える。 ☐ 練習すれば大丈夫。 ☐ 絶対できる。 ☐ うまくできた生徒にマスターの称号(シール)を称賛と共に与える。 ☐ キーワードやポイントの発言がみられたか。	称号のシールを準備する。

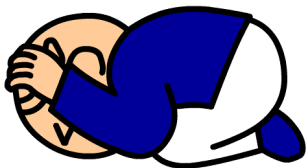
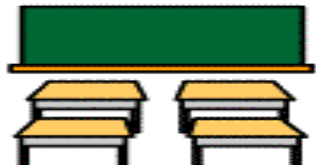
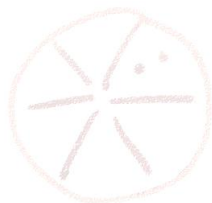
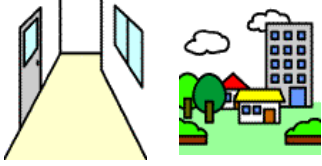
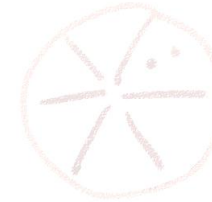
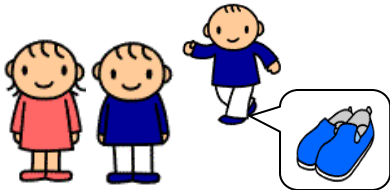
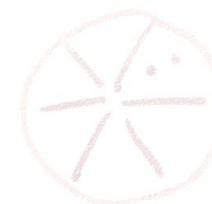
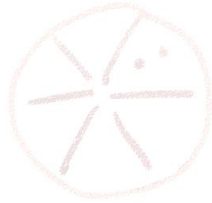
5 評価規準

関心・意欲・態度	技能	知識・理解
教職員の指示に従い、適切な避難行動を取ろうとしている。	- 緊急地震速報の音で判断し即座に初期行動(ダンゴムシのポーズ)をとることができる。 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所が分かり、自ら安全な行動ができる。	- 緊急地震速報の音と、実際の大きな揺れの関係を理解している。 - 避難場所や避難の際の留意点を理解している。

6 その他

- ワークシート「めざせ！ダンゴムシ☆マスター」(参考資料1)
- 掲示物「シェイクアウト(安全行動の1・2・3)」(参考資料2)

めざせ！ダンゴムシ☆マスター

ステージ	活動の場所	マスターポイント
①ダンゴムシ 	教室 外（起震車）	
②ダンゴムシを見つけよう！ 	教室	
③どこでもダンゴムシ！ 	体育館 グラウンド 廊下 など	
④ダンゴムシの大移動！ 	教室 避難場所	
⑤ダンゴムシリーダーは君だ！ 	？ どこでも！	
実際の場面で できる。	ないことを 祈りましょう！	

《シェイクアウト》



ひく
低く!



くび あたま
首・頭
まも
守る!



そのまま
ま
待つ!

1 単元名

「学校で泊まろう」

2 ねらい

○学校待機訓練（今後は災害時）等，学校に待機しなければならない場合に備え，保護者の迎えがあるまで落ち着いて過ごしたり，食事（非常食）を取ったりすることができるようにする。また，泊を伴う場合，自分の寝袋に入り，休養が取れるようにする。

3 指導計画

（１）事前指導

- ・待機訓練への見通しがもてるよう，過ごし方，食事，就寝等について，イラストを用いて説明する。

（２）本時の指導

- ・非常食（アルファ米）がどのようなものかを知り，実際に作って食べる。
- ・寝袋の使い方がわかり，自分で準備し，実際に中に入って寝ることができる。

（３）事後指導

- ・待機訓練（災害時）等，実際の場面でも落ち着いて行動ができるよう，具体的な活動の見通しがもてるように説明する。
- ・安心して寝袋に入って体を休めることができるように，繰り返し練習をする。



4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導	準備等
1 前時（待機訓練の話）の確認をする。	・お湯を入れる前の状態を確認させる。	
2 アルファ米を作って食べる。	・お湯を入れる前の状態を確認させ、状態の変化に対する興味関心を高めるようにする。	・アルファ米，お湯（70℃程度，安全面に配慮する）
3 寝袋に入ってリラックスタイム（お昼寝）をする。	・寝袋の使い方を示範し，利用の仕方を具体的にイメージさせる。 ・不安感のある児童については，言葉かけをしたり，側について見守ったりする。	・寝袋，CD（日頃からリラックスタイムにかけているもの）
4 振り返りをする。	・適切な行動がとれた児童を認め紹介し，待機訓練への自信がもてるようにする。	

5 評価規準

関心・意欲・態度	技能	知識・理解
学校待機時の行動の仕方に関心を持ち，進んで取り組もうとしている。	泊を伴う場合は，寝袋を利用し，休養を取ることができる。	学校待機時には，落ち着いて行動することの大切さを理解している。

1 単元名

「震災カルタをしよう」

2 ねらい

- ・「震災カルタ」の解説に記された被災時の説明を読むことを通して、東日本大震災時の状況と教訓に対する理解を深めることができる。
- ・「震災カルタ」を使った学習を通して、震災についての知識を身に付け防災意識を高める。

3 指導計画

(1) 事前指導

- ・東日本大震災についての新聞記事を読み、地震の被害の状況、復興の状況について知る。

(2) 本時の指導

- ・「震災カルタ」でカルタ取りをし、取った札の解説を読むことで、震災時の状況について知り、命を守る訓練に対する意識を高める。
- ・「復興」「生活」「つながり」「知恵」「防災」「気もち」の6つの札のグループに分かれて、「感じたこと」「覚えておくこと」「今わたしたちにできること」を話し合う。

(3) 事後指導

- ・災害フローチャート（学習プリント）に沿って、さまざまな場面で災害が起こった際に、自分がどう行動するとよいのか考える。



4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
○「震災カルタ」のカルタ取りをする。	・東日本大震災の新聞記事や視覚資料（写真・映像等）を紹介することで、前時の学習を想起できるようにする。 ・カルタ取りに積極的に参加している生徒を価値付け、認める。	「震災カルタ」
○カルタ取りが終わったら、6つの札のグループの中から、自分の関心のある内容を選ぶ。	・自分でグループを決めることができるよう、興味関心を引き出す言葉かけをする。	学習プリント
○グループに分かれて、札の裏の解説を読む。	・理解が困難な生徒に対しては、言葉の意味等を説明する。	
○解説を読んで「感じたこと」「覚えておくこと」「今わたしたちにできること」について意見交流をする。	・自分の意見を発言したり、書いたりして表現することができたか。 ・初めて知ったこと、自分が知っていることを伝えようとしている生徒を価値付ける。	

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
・震災カルタに書かれた解説を読み、分かったことを仲間伝えようとしている。	・発表から、東日本大震災の復興に携わった方々のよさを見付け、自分の言葉で感想カードに書いている。	・「震災カルタ」を使った学習を通して、震災についての知識を身に付けている。 ・東日本大震災の状況や教訓を交流することを通して、災害時に助け合うことの大切さを理解することができる。



1 単元名

「自分の命は自分で守ろう」

2 ねらい

- 災害発生時に、自分の身を守るための適切な行動の取り方を身に付けることができる。
- 防災意識を高めると共に、落ち着いて行動し、大きな声で意思表示をすることができる。

3 指導計画

9月を本校の防災月間とし、短時間の命を守る訓練を3回（朝の会、休み時間、掃除の時間）、通常の命を守る訓練を1回、実施することにした。それらの取組を生活単元学習で取り上げていくことで、防災意識を高める。

（1）放送で呼びかけよう

- ・9月が防災月間であることを全校生徒に伝える原稿を考える。
- ・給食の時間に放送をかけて、全校生徒に呼びかける。

（2）大声大会を開催しよう

- ・大声大会について説明する原稿を考える。（本時①）
- ・実際にクラスで大声大会を行う。（本時②）
- ・給食の時間を使って呼びかける。
- ・全校に実施した大声大会の賞状を作成する。

（3）命を守る訓練のアンケートをとろう

- ・訓練で大切なことを振り返るアンケートを作成し、回収する。

（4）アンケート結果・大声大会の結果を発表しよう

- ・大声大会の表彰を行い、緊急時に大声を出すことの大切さを伝える。
- ・アンケートの集計や感想をまとめて、発表する。

（5）家族に伝えよう

- ・学校以外で災害にあった時の行動の仕方を考え、家族に伝えることができる。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 〈導入〉 ・大きな音が聞こえたら「ダンゴムシ1・2・3」を行う。	・慌てずに次の行動がとれるように見守り、支援する。 ①姿勢を低くする。 ②頭や体を守る。 ③揺れが収まるまで待つ。 ・机などにもぐり、頭を守り、落ち着いて行動することができる。	地震の効果音

2 〈展開〉 ・説明するための原稿を考える。 ①大声を出す必要性について ②日にち： 日（ ） ③時間（給食終了後） ④場所（1階エレベーター前） ⑤場面を設定して、大声で話す内容は各自で考えることを伝える。 ・自分なら、どんな声をかけるかを考え、実際に練習してみる。「ぼくは、ここにいます！助けてください」「誰か、一緒に避難してください」等の声を出す。 休み時間等に説明する際のリハーサルを行う。 3 〈まとめ〉 ・どこにいても慌てずに自分の身を守ることに大切さを確認する。	・どんな時に大声を出さなくてはならないか、何を話せばよいかを話し合うことで、大声を出すことの大切さを理解させる。 ・場面設定について ・昼休みに、廊下を歩いていると地震が起きた。体を小さくしてじっとした。揺れが収まったので一歩、歩くと窓のガラスを踏んだ音がした。放送では、グラウンドへ避難するように指示があった。 ・騒音計で測定して、声の大きさを確認する。 ・慌てて行動することで二次的な被害が起きることもあり得ることを話す。 ・全員が話す役割を担うように分担する。 ・ダンゴムシ1・2・3の行動が大切なことを確認し、自分を守るために大きな声を出すことが大切であることを話す。	騒音計
--	--	------------

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
・教職員の指示に従い、適切な避難行動を取ろうとしている。 ・大声大会を通して、仲間にも防災意識を高めてほしいという願いをもって、リハーサルに取り組もうとしている。	・緊急時に大きな音で判断し即座に初期行動（ダンゴムシ1，2，3のポーズ）を取っている。 ・落ち着いて行動し、必要があれば大きな声を出している。	・緊急地震速報の音と、実際の大きな揺れの関係を理解している。 ・避難場所や避難の際の留意点を理解している。

1 単元名

聞こえにくさと社会生活

2 ねらい

- 自分の聞こえにくい状況を理解し、その場に応じた対応ができる。
- 相手に「伝える」ために必要な情報を収集し、その情報を正しく伝えることができる。
- トラブル発生時の対応方法を知り、いざという時に生かせるようにする。

3 指導計画

(1) 事前指導

- ・自分の障がいを理解し、聞こえにくさを相手に伝える（2時間）
聞こえの状況や、周囲に理解を求める方法、聞こえにくさからくる生活の中の不便さについて考える。また、その不便さをどのように解消するか、そのために自分は何をしなければならないかを討論し、非常時に備える。

(2) 本時の指導

- ・トラブル対応の方法（1時間）
電車乗車中に事故が発生し、電車が止まったとき、どのように対応するとよいのかを、ロールプレイングを通して考える。

(3) 事後指導

- ・緊急時の対応を振り返り、今後自分に必要な対応方法を考える（1時間）
放送が聞こえないときや周囲の言葉が分からない時に情報を得るためには、自分から積極的に動かなければならないことを知り、情報障がいにならないための方法を考える。また、卒業後の生活の中で、地域の人、近所の人、職場の人等と円滑なコミュニケーションをとり、よりよい人間関係を作ることの大切さを知ることができる。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1「普段の生活を振り返ろう」 帰りが遅くなったとき、どんな対応をしているだろう。 ・保護者に連絡をする。 連絡方法は？その内容は？ ・実際に連絡メールを作成してみよう。 ・保護者の立場になって考えてみよう。 →どんな情報を伝えたら、相手にきちんと自分の状況が伝わるだろう。 2「実際の状況を想定して、自分で対応してみよう」 【シチュエーション1】 7：4500発の電車が急に止まった。 ・ワークシートを使い、状況をイメージする。 ・どんな情報を知りたいかを考え、質問方法を書き出す。	・具体的な場面をあげて、どのような連絡をしているか、数人に発表させる。 ・実際の場面がイメージできるよう手話や動きを使って説明する。 ・子ども、保護者、それぞれの立場を考え、自分の行動を振り返ることができるようにする。 ◎相手の立場になって考えるように伝える。 ・乗客役の生徒がどのような対応をするとよいのかを見合い、よりよい対応方法に気が付くことができるように視点を示す。 ・自分の対応方法と他の人の方法を比較して考えられるようにする。	・ワークシートの使用 ・作成したメールを全員が見られるよう映す。 ・動画をもちいて、イメージを膨らませる。

・急停車した状況で、準備していた質問をし、現状を知るための情報を得る。 途中で放送が入る 「〇〇駅の手前で事故が発生したため、△△駅で停車します。復旧の見込みが立たないので、△△駅から□□まで臨時バスが出ます。」 ・実際の現場をイメージして実践する。 →乗客役の教員に質問をし、必要な情報がどのくらい得られるか実践する。 ・期待した答えが返ってこなかった時、なぜそうなったかを振り返る。どうすれば予想した答えが返ってくるかを考える。 ・ロールプレイングに参加した生徒に感想を聞く。 ・良かった点、改善点等を交流する。 ・役割を交代し、改善点について意識しながら行う。 【シチュエーション2】 7:45●●発の電車が急に止まった。途中で放送が入る。 「〇〇駅の手前の踏切が故障したため、運転を見合わせています。しばらくお待ちください。」～途中で、「30分後に運転開始予定です」と放送を入れる。 ・シチュエーション1と同様に、質問をし、正しく情報を得る。 3「乗客から得た情報をまとめて、今の状況を会社に伝えてみよう」 ・自分の得た情報を、相手に伝わるように正しい言葉遣いで、端的にメールにまとめる。 4 まとめ 緊急事態が起こったときに行動の仕方や必要な情報についてまとめる。	・質問される側の気持ちを考え、自分の質問と比較できるよう、適宜声を掛ける。 ・見ている生徒は、自分の質問項目と比較しながら、自分ならこうする・・・と考えて聞くように伝える。 ・演じる生徒は、積極的に質問して、情報収集をする。言葉遣い等に気を付けるよう伝える。 ・演じた生徒、教員、見ていた生徒から、それぞれ感想を話す。 ・良さと改善点を離すとよいことを伝える。 ◎正しい言葉遣い、メモを活用している姿を価値付け、認め励ます。 ◎振り返りを参考に、自分から積極的に正しい情報が得られるように働きかけることができる。 ・正しい文章を書くことができるか確認をする。 ・お互いの文章を比較できるようにする。 ・メールの書き方についても考える。（氏名、状況等、相手に分かりやすく書かれているか） ◎情報を整理し、分かりやすい文章を作ることができる。 ・授業の中から、大切なことを振り返ることができるよう、質問の仕方を工夫する。 ◎相手に伝えるための必要な行動について振り返ることができる。	・乗客（教員）10人の中に聴覚障害者一人という状況でロールプレイングをする。 ・実際の放送のように聞き取りにくくするためにメガホンを使用する。（口元も見えないようにする） ・作成したメールを全員が見られるよう映す。
---	--	--

5 評価規準

- ・事故が発生したときの対応の仕方を、ロールプレイングを通して考えることで、自分の聞こえにくい状況を理解し、その場に応じた対応の仕方を身に付けることができる。
- ・相手に「伝える」ために必要な情報を収集し、その情報を正しく伝えることができる。
- ・災害時に落ち着いて状況を判断し、正しく情報を得ることができる。

1 単元名

3. 11を見つめる～今を知る・未来に備える～

2 ねらい

- 東日本大震災における被災地の現状や現地での取組について知り、公助・自助・共助の在り方について理解を深めることができる。
- 宮城県の特別支援学校のみなさんへメッセージを送ることを通して、自らの聞こえにくさについて理解を深め、非常変災時の対応について考える。

3 指導計画（27時間）

（1）事前指導

〈総合的な学習の時間 6時間、自立活動 6時間、LHR 4時間〉

- ・DVD「手話で語る3.11～宮城 被災ろう者の体験談～」（今村彩子制作）や過去に宮城県の特別支援学校に送ったDVDを鑑賞し、宮城県の特別支援学校のみなさんへのメッセージを作成する。（4時間）
- ・文化祭での発表に向けてグループ別にテーマを設定し、学習活動を行う。
①防災についてのアンケートの実施②DVD「手話で語る3.11～宮城 被災ろう者の体験談～」（今村彩子制作）の紹介③学校紹介（本校における防災の取組について）④身近にあるボランティアについて⑤防災クイズ⑥モザイクアート「東北の美しい空」の製作（10時間）
- ・これまでの取組の成果をまとめ、発表に向けての準備をする。（2時間）
〈国語総合 9時間〉
- ・東日本大震災や防災に関連する記事を収集し、新聞コラージュを作成する。（4時間）
- ・東日本大震災や防災に関連する投書や社説を読み、意見文を書く。（3時間）
- ・短歌を作り、鑑賞文を添えて宮城県の特別支援学校へ送る。（2時間）

（2）本時の指導

- ・年間を通した自分たちの取組を振り返り、高等部の仲間に向けて成果を発表する。（1時間）

（3）事後指導

- ・画像や仲間の作品を見ながら、一年間の取組を通して学んだことや仲間の活動を評価し合い、今後、自分が非常変災時の対応としてどのようなことを心掛けるべきかについて文章にまとめる。（1時間）

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
1 はじめに ・「3.11を見つめる～今を知る・未来に備える～」に取り組んだ経緯について、司会者が説明する。	○掲示物や話し手の立ち位置が、聞き手に見やすいかを確認するよう促す。 ○最後列に立ち、手話を用いて、必要な指示を送る。	・プログラム 掲示物、譜面台 ・ボランティアグッズ
2 リハーサルで確認した事柄を意識しながらプログラムに沿って一年間の取組を発表する。	・発表がスムーズに進行できるように、進んで準備や片付けをしたり仲間を助けたりする姿を価	「ちょっとボランティアチョコレート・チョコ

3 聞き手（生徒，教員）の感想を聞く。	値付ける。 ・声量や話す速さが意識できるよう，サインを送る。 ○感想発表者が見やすいよう，立ち位置を指定する。 ○感想をしっかり聞くことができたか。 ○まとめの際に，一連の学習活動を防災意識と結び付けられるよう，南海トラフ地震に関連する新聞記事を掲示する。	コボ， 「ちょこっとボランティアシート・ペタボ」 （NPO法人ひまわりノートHP） ・南海トラフ地震被害想定に掲載された新聞記事
4 まとめ ・活動を通して学んだことや仲間に伝えたい思いについて，リーダーが述べる。	○協力して速やかに作業が行えるよう，言葉掛けをする。 ○仲間の発言が終わったら，互いに拍手で認め合えるとよいことを語る。	
5 片付けと反省を行う。 ・リーダーを中心に，全員が一言ずつ感想を述べる。		

5 評価規準

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
一年間の取組についてまとめ，高等部の仲間に向けて伝えようとしている。	宮城県立聴覚支援学校のみなさんへメッセージを送るために，東日本大震災に関連する新聞記事や社説等を調べようとしている。	作成した意見文や新聞コラージュを，仲間に見せながら説明することができる。	東日本大震災における被災地の現状や現地での取組について知り，公助・自助・共助のあり方について理解している。

6 その他

参考資料

- ・DVD「手話で語る3.11～宮城 被災ろう者の体験談～」(今村彩子制作)
- ・「河北新報のいちばん長い日 震災下の地元紙」(河北新報 文藝春秋)
- ・「巨大津波が襲った 3.11大震災 発生から10日間 東北の記録」(河北新報出版センター)
- ・「東日本大震災 気仙沼の大震災～あの日から一年～」(「浜らいん」編集局)
- ・NPO法人ひまわりノート HP
- ・「被災ママ812人が作った 子連れ防災手帳」(つながる.com メディアファクトリー)
- ・「ファイト新聞」(ファイト新聞社 河出書房新社)
- ・「がれきの中で本当にあったこと わが子と語る東日本大震災」(産経新聞社 産経新聞出版)
- ・「M9大震災サバイバル術100問100答」(山村武彦 成美堂出版)
- ・「僕のお父さんは東電の社員です」(毎日小学生新聞編+森達也 現代書刊)
- ・「朝日新聞」，「中日新聞」，「毎日新聞」 各紙

1 単元名

「防災バックを完成させよう！ ～もしものときに、自分たちでできること～」

2 ねらい

- ・災害から自らの生命を守るために必要な事柄や防災器具の使い方を理解し、自ら安全な行動ができるようにする。
- ・仲間と協力して、課題の解決に向けて取り組むことができる。

3 指導計画（全13時間）

時	学習内容・学習活動	教師の指導
1 2	○防災の日、東日本大震災について知る。 ・地震の起こる仕組みを知る。 ・命を守るための事項を知り、身の回りの危険な場所を探す。 ○災害時の初期行動体験 ・だんごむしのポーズを理解する。	・当時の様子を、写真やビデオで見せる。 ・万力とチョークを用いて、地震の仕組みを体験できるようにする。 ・実際の学校生活の写真を使い、関心を高める。 ・音楽やDVDを用いて、楽しく体を動かしながら、命を守るポイントを学べるようにする。
3 4	・クラスごとに校内の危険箇所を確認したり、防災設備を使ったり体験したりする。 （滑り台、消化器、非常電源、非常口、非常袋）→消防署の方から使い方を教えてもらう。	・危険箇所を自分たちで意識できるよう、校内の見取り図を配り、印をつけられるようにする。 ・消防署の方に依頼し、消火器の使い方を直接指導していただく。
5 6	○防災グッズの中身を、クラスで話し合っ て決める。 ○命を守る訓練 ・だんごむしのポーズを素早くとる。 ・防災グッズを見る、知る、触る。	・生徒主体の話し合いを仕組むために、学級委員を中心に話し合いを進める。（インターネット活用） ・見本となる防災袋を事前に用意しておく。 ・非常時に利用できるように、防災グッズを実際に何度も使ってみる。
7	○乾パンに合う食材をクラスで話し合い、 全体で発表する。 ○命を守る訓練 ・合図で、だんごむしのポーズをとる。 ・非常食の試食をする。	・生徒主体の話し合いを仕組むために、学級委員を中心に話し合いを進める。（インターネット活用） ・様々な種類の非常食を試食して、食べることできた食品を記録し、保護者に伝える。
8 9 本 時	○身近な物を使って道具を作る。 ・新聞紙でスリッパ、食器を作る。 ・新聞紙スリッパで歩く。 ・新聞紙の食器で乾パンを食べる。 ○命を守る訓練	・作り方を写真やイラストを用いて説明する。 ・卵の殻の上を靴下で歩いてみて、スリッパで歩いた場合と比べられるようにする。 ・クラスの仲間同士で助け合えるように、言葉かけをする。 ・命を守るポーズがとれるように、言葉かけをする。
10 11	○掲示物作りをする。 ・今まで学んできたことを、クラスごとに模造紙にまとめる。 ・クラスで考えた防災バックの中身を発表する準備をする。 ○命を守る訓練 ・音で判断し、だんごむしのポーズをとる。	・今までの学習を思い出し、振り返ることができるように、資料や写真を準備する。 ・防災グッズのそれぞれの使い方や機能を、再度確認する。 ・非常食や、非常食を食べている写真を使って、活動を振り返ることができる。
12 13	○掲示物の展示をする。 ・体育館に、クラスで作った掲示物を展示する。 ○防災バックを完成させる。 （クイズ、新聞スリッパ、非常電源） ・防災バックの中身を発表する。	・指示された位置に展示できているか、確認をする。 ・今まで学習を振り返ることができる課題を用意する。 ・クラスの仲間と助け合いができるように言葉かけをする。 ・全員が活躍できるように、役割分担をしながら取り組めるようにする。

4 本時のねらい

- ・クラスで協力して、活動に取り組むことができる。
- ・身近な材料を使って、防災の道具の作り方をすることができる。

5 本時の展開（８・９／１３）

学習内容・学習活動	教師の指導・評価	資料等
① 命を守る訓練 ・緊急地震速報を流す。 ・即座に避難行動をとる。	・命を守る３つの事項（落ちてこない、倒れてこない、移動してこない）を復習し、頭を守れているか、机の脚を押さえられているかなどを確認する。	・プリント
② 新聞紙を使って、スリッパと皿を作成する。	・写真付きの手順表を用意し、クラスで協力して作れるように言葉かけをする。	・新聞紙 ・手順表
③ 卵の殻の上を実際に歩く。 ・裸足で歩く ・新聞紙スリッパで歩く ・比べてみる	・卵の殻がガラスだったらどうなるか、裸足とスリッパを履いた状態とを比べさせ、歩いた感じについて問いかける。	・卵の殻
④ 新聞紙のお皿で、乾パンを試食する。 ・乾パンとクラスで話し合った食材を、一緒に食べてみる。	・仲間同士で協力して食材を分け合えるように、言葉かけをする。 ・どのような食材が乾パンによく合うか、一緒に考える。	・乾パン ・クラスできめた食材 ・プリント
⑤ 本時の感想を書く。	・身近な材料を使った防災グッズの作り方を確認し、災害時には身近な物を利用することの大切さを話す。	

6 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・校内の危険個所を確認したり、防災設備を使ったりしたことをもとに、災害時に必要な備え（防災グッズ）として必要なものを仲間に伝えようとしている。	・校内をまわり、危険な箇所を自分たちで見付けて、校内の見取り図に印を付けている。	・教師や仲間の動きに合わせて、即座に初期行動（ダンゴムシのポーズ）をとることができる。	・身近な材料を使った、防災グッズの作り方を理解している。

1 活動名

「日常生活の指導と防災教育」

～日常生活（朝の会・帰りの会）における命を守る訓練の位置付け～

2 ねらい

- ・地震発生時の初期行動「ダンゴムシ（シェイクアウト）のポーズ」を理解し、緊急時に即座にその態勢を取ることができる。
- ・日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。（素早い更衣、靴の履き替え、身の回りの整理整頓）
- ・気象の変化に関心をもち、風水害等の危険について理解することができる。

3 指導計画

（1）事前指導（各教科領域との結び付け）

- ・生活単元学習における地震（速報）と「シェイクアウト」の関連性を知る。
- ・更衣の手順と素早い着替え・素早い靴の履き替えを行う。
- ・整列点呼と体調管理の大切さを知る。
- ・整理整頓、掃除の仕方を確認する。

（2）本時の指導

- ・安全な場所で靴の素早い履き替えができる。
- ・朝の会で命を守る訓練を行う。
- ・着替えや整理整頓の練習を行う。

（3）事後指導

- ・日常生活の様々な場面でも、適宜、地震が発生したことを想定し、初期行動等がとれるように練習する。

4 本時の展開

学習内容・学習活動	教師の指導・口評価	資料等
1 昇降口での靴の履き替え ・空いた、安全なスペースでの靴の履き替えをする。 ・安全な場所を学ぶ。	・靴棚から持ち出した靴を離れた場所で履き、また戻す様に促す。 （履き易さ、安全への配慮）	
2 朝の会を行う。（※朝の会実施例） 朝の会 ・朝のあいさつ ・健康観察 ・天気調べ ・今日の予定 ・今日の給食 ・ダンゴムシ♪ ・先生のお話 ・おわりのあいさつ	・全員の点呼を合わせて学級委員が行う。 ・災害発生時の様子と安全な行動の仕方を伝え、意識付ける。 ・3分間のシェイクアウトを促す。ダンゴムシ □ダンゴムシのポーズを素早	・朝の会表の掲示（状態によっては、補助的な支援を用いる）

	く取ることができた姿を価値付け、認め広める。地域の自然環境や災害や防災について意欲的に調べる姿を価値付け、認め広める。	・パソコンの活用
3 着替えの練習 ・着替えの手順とポイントを意識して素早く着替える。	・カウントダウンタイマーを用いて視覚的に早く着替えることを促す。 ・着替えの順序とコツを伝える。 ☐ 一定時間内に着替えができた姿を価値付け、認め広める。	・カウントダウンタイマー ・着替えの順序カード
4 片付け（整理整頓）の練習 ◇着替えたモノの片付けをする。 ・ハンガーにかける。 ・きれいにたたむ。 ◇今日の準備 ・連絡ノートを所定の場所に出す。 ・給食のナフキン、コップを所定の場所に準備する。 ・タオルを机の横に掛ける。 ・鞆をロッカーに片付ける。等	・決めた場所（所定）に片付けられるように確認しながら整理整頓を促す。 ☐ 必要時にすぐに取り出せる場所や状態で片付けができた姿を価値付ける。 ☐ 素早く片付けや準備ができた姿を価値付ける。	※必要（児童生徒の状態）に応じて写真カードを活用する。

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
・教職員の指示に従い、適切な避難行動を取ろうとしている。 ・地域の自然環境や、災害や防災について関心を持ち天気調べに取り組もうとしている。	・合図に合わせて、即座に初期行動（ダンゴムシのポーズ）を取ることができている。 ・自らの安全を確保するための行動ができている。（素早い着替え、靴の履き替え、身の回りの整理整頓）	・日常的な備えの大切さを理解している。 ・避難場所や避難の際の留意点を理解している。

- 1 実施名及び訓練名（单元名）
- 「保護者，学校間における確実な児童生徒の引渡し」
～保護者懇談会を活用した訓練の実施（導入初期：小規模）～
- 2 ねらい
- ・大災害時及び非常時における学校，保護者間の児童生徒の引渡方法（手順）が分かる。
- 3 指導計画
- （1）事前指導
- ・職員会での共通理解と業務分担の確認をする。
- ・保護者へ概要の説明（プリント及び担任からの伝達）を行う。
- ・各学部における懇談週間（1週間）の中で，該当学部主事，教務部，学級担任，防災担当が中心となり実務的な準備を行う。
- （2）本時の指導
- ・保護者の方が，引渡しの手順を理解し，迅速かつ正確な引渡しをする。
- （3）事後指導
- ・事前の情報の入手時の対応，引渡し手順について反省や評価を行い，迅速かつ正確な引渡しができるように情報の交換を行いながら改善に努める。

4 本時の展開

訓練の内容・訓練の流れ	教師の指導・口評価	資料等
1 大地震（震度6弱）発生した想定 （訓練）一斉メール配信，保護者への連絡（懇談時確認→引渡し）		・地震発生（訓練）を一斉メール配信
2 引渡しの実施及び場所の指定連絡 メール配信及び連絡系統（災害伝言ダイヤル・電話等）での伝達 →保護者は，メール受信確認 災害用伝言ダイヤルの活用確認 ※実際の災害時には，連絡手段途絶の可能性があるので，保護者の判断で引渡しを実施する。（安全に留意し，判断材料として情報提供を行う。） （震度5弱以上の地震発生時は，原則引渡しの対象となる）	・臨機応変に対応できるように基準を事前に説明しておく。 ・災害想定を念頭においた連絡方法及び判断規準について共通理解を図る。 ・保護者の安全を十分に留意した指示系統の確認。	・メール配信 ・災害伝言ダイヤルの準備
【保護者の学校への送迎対応】（保護者の安全の確保を第一に考える） ・車・徒歩・公共交通機関等，様々な手段を想定しておく。 ・指定駐車場所への誘導（誘導担当者）		

【保護者懇談の実施】（保護者に具体的な対応を説明） ・引渡しに関する概要の確認（連絡系統の確認・震度5弱以上・安全配慮が第一優先） ・引渡しに関する手順の確認（引渡カードの活用と対象者）		
3 引渡し受付 ・引渡指定場所（各学部指定） ※実場面は、安全な場所に全学部対応が可能な受付を設置予定 ・受付での引渡カードの記入 ・受付職員の確認 （外傷及び手当等を含む特記事項の確認）	・引渡場所，手順を明記し，掲示する。 ・受け取り者が誰でも対応できるように，流れや手段について掲示で分かりやすく示す。 ・素早く対応できるよう児童生徒の誘導方法，役割分担等の対応について共通理解を図る。 ☐必要記述事項を確認し，確実に引渡しができるか。 ・帰着連絡手段の確認と帰着連絡がない場合は，帰宅予想時刻後に連絡を取る。	・「児童生徒の引渡カード」の準備。（事前配布，及び受けつけ準備） ・帰着確認名簿 ・緊急時児童生徒連絡先一覧名簿
4 児童生徒の誘導，引渡し ・引渡時間を確認 ・カード半券の受け渡し		
5 保護者・児童生徒の帰宅		
6 帰着確認 ・保護者からのメール配信 ・電話連絡		

5 評価規準

- ・災害想定を広い視野で検討し，基本的な児童生徒の引渡方法及び判断規準について，学校職員と保護者との間で共通理解を図ることができている。
- ・円滑かつ確実に保護者への児童生徒の引渡しを行うことができている。
- ・保護者の送迎に関し安全確保を第一に考えた，情報の伝達を行うことができている。

6 その他

- ・児童生徒の引渡し及び災害用伝言ダイヤル訓練（保護者案内）（参考資料1）
- ・児童生徒の引渡しについて（参考資料2）
- ・児童生徒引渡カード（参考資料3）

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇特別支援学校 保護者 様

県立〇〇特別支援学校
校 長 〇 〇 〇 〇

児童生徒の引渡し・伝言ダイヤル訓練について

〇〇の候、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

現在、岐阜県・校内双方につきまして防災意識の向上及び体制の確立のため災害時及び変災時等における下校体制及び、児童生徒の引渡しをより確実に行うべく取り組みを計画しております。お手数をおかけしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

【児童生徒の引渡訓練について】

- 1 概 要 大災害時における連絡手段の確認と学校、保護者間の児童生徒の引渡方法の確認と帰着確認方法について
※訓練は、大災害時における引渡しの方法を想定（引渡カードの使用）

- 2 目 的 非常変災時及び、災害時における児童生徒の引渡し方法を知る。
確実・安全な児童生徒の引渡しに関する検討の課題を明確にする。

- 3 実施期日 各学部懇談週間での実施

小学部・・・・・・ 月 日～ 日の間の懇談実施日（メール配信日： 月 日）

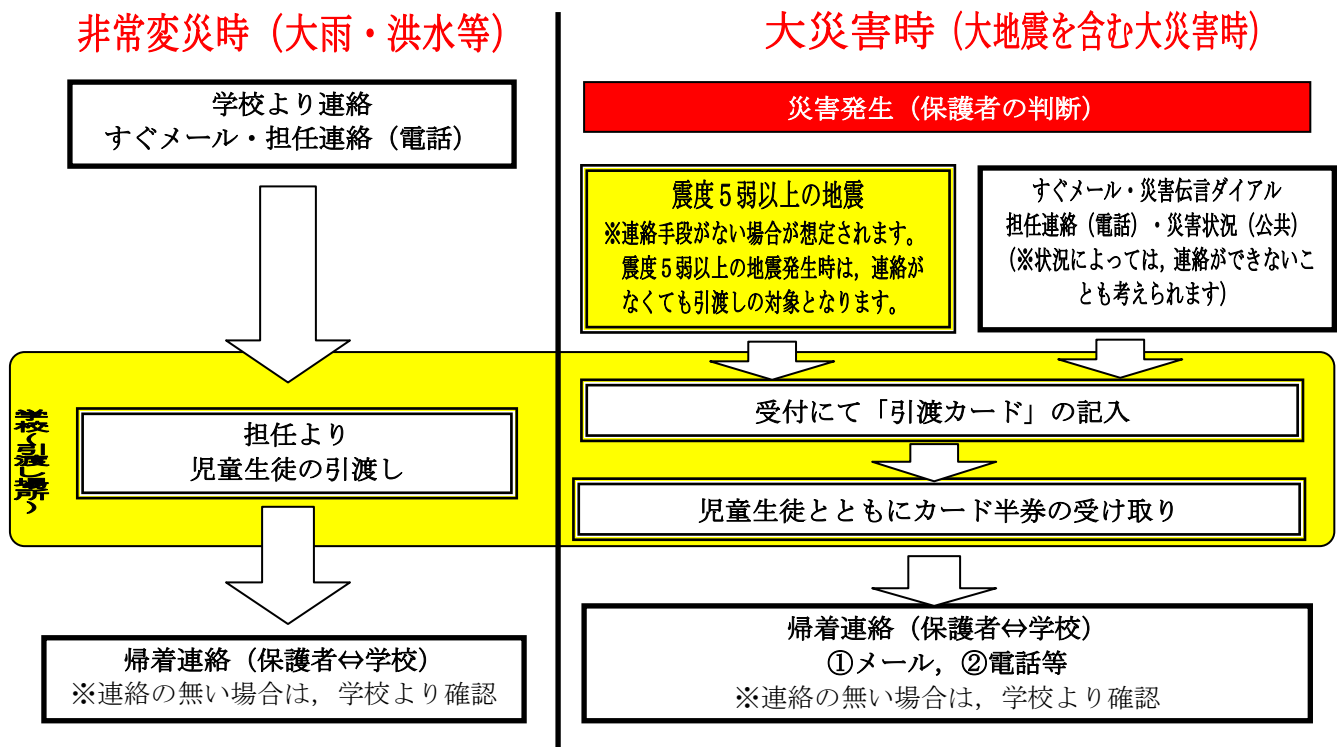
中学部・・・・・・ 月 日～ 日の間の懇談実施日（メール配信日： 月 日）

高等部：普通・・ 月 日～ 日の間の懇談実施日（メール配信日： 月 日）

高等部：職業・・ 月 日～ 日の間の懇談実施日（メール配信日： 月 日）

※注）引渡訓練の実施は、適宜行います。（懇談当日とします）

- 4 引渡しの方法について



※懇談週間の初日に、メールを活用しての「訓練メール」を学部毎に配信します。

引渡しの実施は、懇談当日（懇談終了後）とします。

【災害伝言ダイヤル訓練について】

- 1 概 要 大災害（南海トラフ大地震、四日市関ヶ原池田断層型地震等）を想定した災害用伝言ダイヤルの活用の方法と連絡手段の確認を行う。
大災害時には、電話での通信、インターネット（メールを含む）アクセスが十分に行えないことが予想されるため、連絡手段の一つとして、災害伝言ダイヤルの活用が必要になる可能でいがある。
- 2 目 的 大災害における情報伝達手段の一つとしての確認をする。
災害用伝言ダイヤルの活用法と、利用の仕方を知る。
- 3 実 施 日 平成〇〇年〇〇月〇〇日（ ）（**：**～**：**）
- 4 災害用伝言ダイヤルの活用方法について（訓練用伝言ダイヤルでの実施を行う）

災害用伝言ダイヤルの再生方法（学校発信）

【災害用伝言ダイヤル】

学 校 番 号



※注1）アナウンスに従い操作して下さい。

※注2）災害用伝言ダイヤルにおける暗証番号の設定は致しません。

【留意点】

再生メッセージを聞くには、携帯電話・固定電話・PHS等でも利用できます。

【災害用伝言ダイヤルに関するアンケート】

	質 問 項 目	回 答
1	災害用伝言ダイヤルの操作をしましたか？	操作した ・ 操作していない
2	災害伝言ダイヤルのメッセージを聞くことができましたか？	聞できた ・ できなかった
3	災害伝言ダイヤルの操作方法について	わかった ・ わからない
4	災害用伝言ダイヤルへのアクセス（ダイヤル）時刻は何時・何分頃でしたか？	時 分頃
5	その他 お気づきの点がありましたらご意見をよろしくお願いします。	

※災害用伝言ダイヤル訓練の参加及び、アンケートの回答ありがとうございます。

実施後、担任を通して本校防災担当者まで、提出ください。（提出期限 月 日まで）

児童生徒の保護者への引渡しについて

1. 児童生徒の引渡手順

1 児童生徒保護者へ連絡（引渡しの概要・依頼）

（連絡手段を検討するが、場合によってはすべての手段で連絡を行う）

- ・すぐメール（一斉メール），担任より保護者への電話連絡，災害伝言ダイヤル，報道機関への要請等

※安全に留意して児童生徒の引き取りを！！（各学部の受付場所）

★状況によっては、すべての連絡手段が取れないことが考えられます。
災害状況をみて、保護者の判断で引取りをお願いします。

2 引渡受付（場所：各学部待機場所）※昇降口での待機場所の案内。

- ↓ ・引渡申込書に必要事項の記入。（記載例を掲示）
- ↓ ・職員による記入事項の確認。及び、児童生徒状況の確認。
（保健室から外傷等の確認事項・特記事項があれば記入する）

※長机準備（鉛筆・引渡カード）

3 児童生徒の引渡し（引渡時刻・引渡者の記入）

4 学校保管票Ⅰの保管・管理（学部学年別に仕分ける）

5 状況をみて帰着連絡を！！保護者からの連絡。

※状況によっては、学校側から連絡を取る。

6 児童生徒の帰着等の最終安否確認

→本部への連絡（随時）

2. 引渡しに関する役割分担

役 割	担 当 者
総務・総括・全体指示	本部組織（管理職・分掌長）
児童生徒受付・誘導	学部教務を中心に支援センター一部
児童生徒の掌握	担任及び、副担任 （場合によっては学部での対応可能職員）
駐車場等誘導・整理	保健安全部
状況確認（公共交通等） 状況の提供・掲示	生活支援部
健康管理・負傷者情報	保健室
帰着確認	保健安全部，学習支援→教務部

3. 引渡しに関する駐車場の指定

- 状況に応じて指定誘導する。

※基本は、本校舎児童生徒・・・本校舎グラウンド内

北校舎生徒・・・北校舎グラウンド内

※学校周辺公道への駐車は、禁止。（保健安全部誘導対応）

児童生徒引渡カード（表面）

学校保管

I 児童生徒引渡票（申し込み）

※保護者記入

学部・学年	小・中・高普・高職 学部 年 組		
児童生徒名			
引取り者（サイン）			
続 柄	父・母・祖父・祖母・兄・姉・その他（ ）		
【帰宅・避難】	移動手段	自家用車・電車・バス・徒歩・自転車	
↓	帰宅経路	経由地：	
		経由地：	
	帰宅場所	自宅・親戚宅（ ）市町村）	
	避 難 所	市町村（場所： ）	
連絡先①		連絡先②	
		対応職員名	
引渡日時	平成 年 月 日	午前・午後 時 分頃	
引渡者への身元確認方法 運転免許・保険証・その他（ ）・なし		帰着確認 （時刻）	：

切り取り

II 引渡し確認票

引渡し→保護者（保管票）

※保護者記入

学部・学年	小学部 ・ 中学部 ・ 高等部普通 ・ 高等部職業		
児童生徒名			
児童生徒の状態	【外傷等】	応急手当：あり・なし 【 時 分頃】	
	負傷の状況		
	負傷の状態		
	【食事に関する事】		
	【特記事項（生徒の状態・メンタル面等を含む）】		
引渡し日時	平成 年 月 日	午前・午後 時 分頃	
対応職員名			

★引取者は、枠内の白い部分を記入ください。

(※Ⅱ引渡確認票の裏面に記載)

----- 切り取り -----

児童生徒引渡カード (裏面)

※ 児童生徒の迎え(引取り)ありがとうございます。

※ 道路状況等に十分に注意し、安全に帰宅・避難してください。

帰宅・避難されましたら、学校への一報をよろしくお願いします。

【帰着連絡及び・連絡方法】

① メールでの連絡が可能な場合

〇〇〇〇〇〇.ed.jp (学校代表メール) ※携帯電話からの送信可

※タイトルに学部・児童生徒名・状況(概要)を記載

例1) タイトル: 小学部・△△ △△・無事帰宅できました。

本文: なし。または、状況。(必ず1文字以上入れてください)

② 電話での連絡が可能な場合

電話: ●●●-●●-●●●● (学校代表) または、担任。

岐阜県立〇〇特別支援学校

岐阜県〇〇〇〇〇〇〇-〇〇〇-〇

(状況においては、連絡が取れない状況も考えられますので、その際は、ご了承くださいますようお願いいたします。)

